

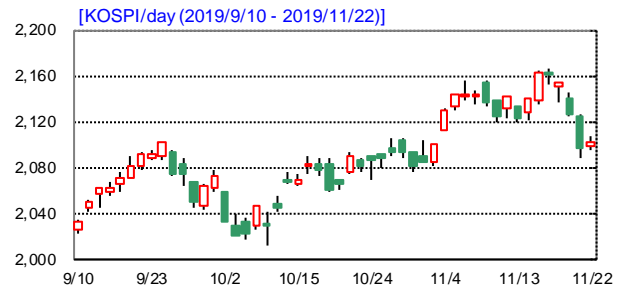


## 【韓国】 総合指数は 2.8%安と 7 週ぶり反落、2100 ポイントを割る場面も

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.8%安と 7 週ぶりに反落。米中貿易協議の先行き不透明感や香港情勢の緊迫化を背景に総じて軟調な展開となった。指数は週初から 4 日続落。21 日は終値で心理的節目の 2100 ポイントを下回り、10 月 31 日以来、3 週ぶりの安値で引けた。前週末に約 6 カ月ぶりの高値をつけた後とあって、利益確定の売りが出やすかったほか、26 日大引け後に発効する MSCI 新興国市場指数のウェイト引き下げを前に、持ち高を調整する動きも広がった。22 日は 5 日ぶりに反発。中国が北京での閣僚級通商協議の開催を提案したことなどが伝わり、米中貿易協議に対する悲観ムードがやや後退した。今週も引き続き米中協議を巡る関連報道に左右される展開が続くと予想する。29 日には中央銀行が基準金利を発表する予定。

▼指数チャート

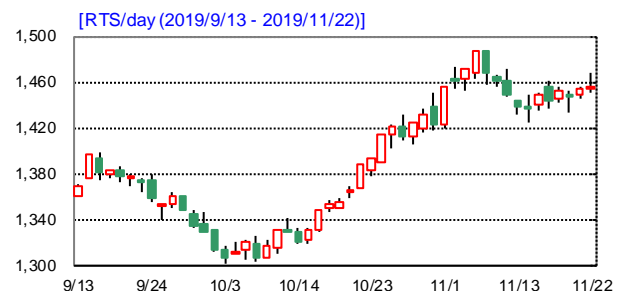


## 【ロシア】 RTS 指数は 0.4%高と反発、今週は米中協議次第で神経質な展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.4%高と反発。好調な企業決算や原油価格の上昇が相場の支援となった。週明け 18 日は米中通商合意への楽観論後退や原油価格の下落などが嫌気され、RTS 指数は前営業日比 0.4%安と下落したものの、その後は好調な企業決算や原油相場の持ち直しを背景におおむね堅調に推移。ただ、米中通商協議の先行き不透明感や利益確定売りを受け、上値では伸び悩んだ。個別銘柄では、資源・エネルギー銘柄のノバテクと MMC ノリリスクニッケルが 1%超下落した一方、モスクワ取引所 (5.1%高)、鉄鋼のセヴェルスターリ (2.3%高) のほか、株式売り出しによる流動性向上が好感された天然ガスのガスプロム (1.6%高) の上昇が指数を押し上げた。今週は米中通商協議の動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート



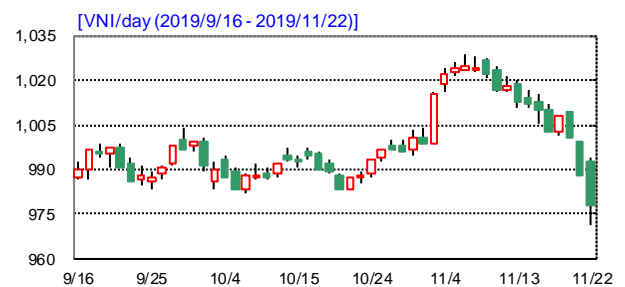
## 【ベトナム】 ベトナム指数は 3.2%安と大幅続落、今週は押し目買いが相場を支えるか

### るか

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 3.2%安と大幅に続落。米中通商合意への不透明感を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、約 2 カ月ぶりの安値をつけた。週明け 18 日は米中通商協議の行方をめぐる楽観論の後退や香港の政情不安を背景に、VN 指数は前営業日比 0.7%安と前週の 13 日から 4 日続落。19 日は金融株が買われ、指数は 0.5%高と反発したが、その後は不動産株や金融株の下落が相場の重しとなった。指数は 22 日まで 3 日続落し、977.78 ポイントで終了。9 月 12 日以来、約 2 カ月ぶりの安値で引けている。個別銘柄では、サイゴンビール・アルコール飲料 (6.7%安)、ベトナムバンク (4.7%安)、ビンググループ (2.8%安) などの下落が指数を押し下げた。今週は米中通商協議の行方をにらみつつ、押し目買いが相場を支えるか。

▼指数チャート

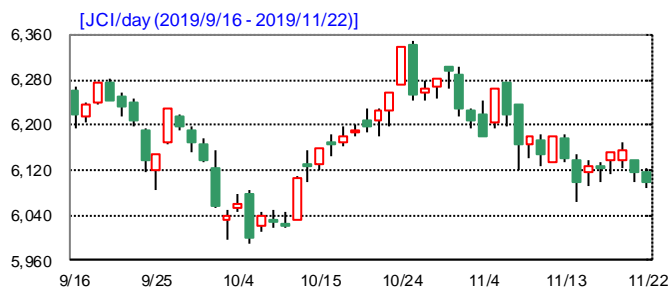


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%安、中央銀行が政策金利の据え置きを決定**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%安と 4 週続落。週後半の下落が痛手だった。週初の 18 日は買い材料に乏しく反落したが、19 日は金融株の一角が買い戻されて反発。20 日は中央銀行の金融政策決定会合を翌日に控えた様子見で小幅な値動きだった。21 日は中銀が市中銀行に対する預金準備率の引き下げを決定したものの効果は薄く、指数は 3 日ぶりに反落。前回まで 4 会合連続で引き下げられた政策金利は 5.0%に据え置かれた。22 日も方向感に乏しく続落して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、パウエル FRB 議長の講演や中国で発表される 10 月の工業部門企業利益が指数を左右する展開か。

### ▼指数チャート

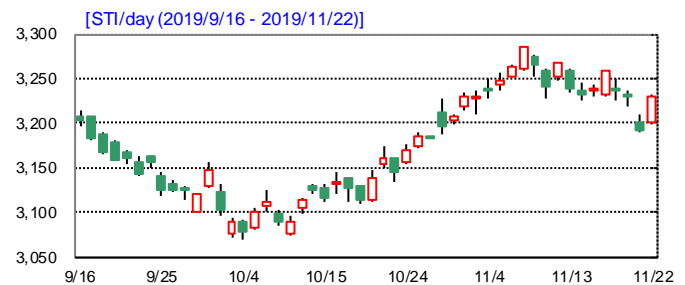


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%安、今週は 26 日に 10 月の鉱工業生産発表**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%安と続落。週末に反発したが補えなかった。18 日は 10 月の非石油地場輸出が前年同月比 12.3%減と 8 カ月連続で前年の水準を下回ったものの、来年度予算案に追加の景気対策が盛り込まれるとの観測が強まり、指数は続伸。ただ、19 日に反落すると、その後は軟調な値動きが続き、21 日は米中貿易交渉の部分合意の遅れが嫌気され、終値で節目の 3200 ポイントを割り込んだ。一方、22 日は中国の習近平国家主席が米中協議の進展に意欲を示したことが好感され、前日比 1.0%高と反発した。今週は 25 日の 10 月の CPI に続き、26 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.3%安、7-9 月期の GDP 成長率は前年同期比 2.4%**

SET 指数は週間で 0.3%安と続落。週半ば以降は終値で 1600 ポイントを下回る水準での軟調な値動きだった。週初の 18 日は 7-9 月期の GDP が前年同期比 2.4%増と市場予想からやや下振れしたものの、追加の景気刺激策への期待感が高まった効果で指数は 4 営業日ぶりに反発。ただ、勢いは続かず 19 日に反落すると、20 日には終値で節目の 1600 ポイントを割り込んだ。21 日は 10 月の輸出額（通関ベース）が前年同月比 4.5%減と 3 カ月連続で前年の水準を下回った影響で指数は 3 日続落。ただ、22 日は金融株の一角が買われ、反発して取引を終えている。今週は 27 日に 10 月の鉱工業生産が発表される予定。

### ▼指数チャート

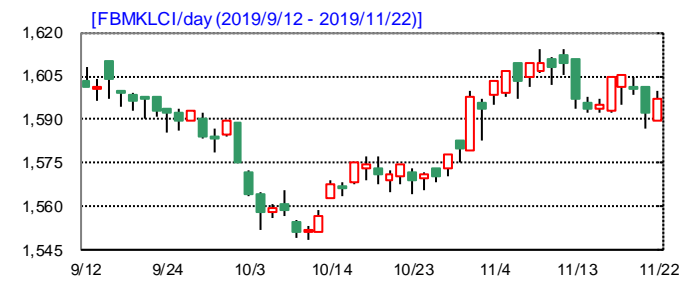


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、1600 ポイントを挟んでもみ合い**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%高と小幅に反発。1600 ポイントを挟んでもみ合った 1 週間だった。週初の 18 日は中国人民銀行（中央銀行）が 7 日物リバースレポの金利を引き下げたことが買い材料視されて指数は続伸。19 日は米国が中国ファーウェイに対する禁輸措置の一部猶予を延長した効果で買われた。ただ、20 日に原油価格の下落を受けて 4 営業日ぶりに反落すると、21 日は米国の上下両院で香港人権法案が可決され、米中関係の悪化に対する懸念が広がった影響で続落。22 日は反動で買い戻されて引けた。今週は国内の重要イベントが少ない中、終値で 1600 ポイントを回復できるかが焦点になる。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。